

女性五輪出場選手数と出身国・地域の男女共同参画状況の指標に関する一考察

- 2000年シドニー五輪参加者数とGEM・性別役割分業肯定認識の係りに着目して -

木村華織(中京大学大学院) 来田享子(中京大学)

キーワード: オリンピック大会、女性競技選手、社会的環境、GEM、性別役割分業肯定認識

1. 研究の目的・動機

わが国でも柔道の谷亮子選手をはじめ、少しずつではあるが結婚や出産というライフステージを経たスポーツのトップ・アスリートが増えてきた。しかし、日本と他の国のスポーツ先進国を比較すると、トップ・アスリートの競技生活を支える社会的環境には大きな違いがあると感じられる。この違いは女性アスリートについて際立っており、オリンピック大会など国際大会での表彰台に立つ既婚女性、あるいは子どもをもつ女性の数の違いがそれを示していると考えられる。そこで本発表では、ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)等の女性に関わる社会的環境の目安となる指標に着目し、これらと2000年シドニー五輪大会に出場した女性選手参加者数(SOCOG, 2000年)¹との関連を中心に検討を行う。また、今回用いた指標の相互関係についても検討する。検討に先立ち、GEMが高いことや女性の就業率が高いこと、性別役割分業観に対する肯定認識が低いことなどを、女性が生活しやすい社会的環境であると仮定し、これが整備されているほど、女性のトップ・アスリートが競技を継続しやすい社会なのではないかという仮説を設定した。

2. 分析方法

SOCOGによる”Sydney 2000 Olympic Games Participation Figures - Total”をデータベース化し、各国の男女別選手数とその合計数を用いた。各国や地域が派遣する選手数は、人口や経済力などの影響を受けると考えられる。そこで、今回の検討では、選手数とともに、これを選手合計数における女性選手数の割合(以下では「女性選手出場率」とする、%)に置き換えたものも活用した。その他の変数については、上述の仮説にもとづき、関連があると考えられた指数等をいくつか選出した。変数は8項目とした。

<変数一覧>

参加選手数(男性・女性)、女性選手出場率、GEM 女性就業率 6歳未満の子どもがいる女性の就業率 保育サービスの利用割合 失業率 性別役割分業に同意する割合(「性別役割分業肯定認識」とする)

これらの変数のうち ~ は、各国・地域の指数または%を順位に置き換えて用いた。順位の高低は、についてはもとの値が高いほど順位が低くなるように順位づけし、それ以外のものはもとの値が高いほど順位が高くなるように順位づけした。ここでは、Spearmanの順位相関を用い、危険度1%未満で有意とした。

3. 結果

分析の結果、次の変数間で相関係数0.6以上の相関関係がみられた。

- 1)男性選手出場数と女性選手出場数
- 2)GEMと女性就業率
- 3)GEMと性別役割分業肯定認識
- 4)GEMと女性選手出場率
- 5)女性就業率と6歳未満の子どもをもつ女性就業率
- 6)女性選手出場率と保育サービスの利用割合

4. 考察

GEMは国会議員および専門・技術職、管理職に占める女性の割合、男女の推定所得から算出された指数である。今回の検討では、GEMと女性選手出場率、GEMと性別役割分業肯定認識はそれぞれ有意な相関を示した。その一方で、女性選手出場率と性別役割分業肯定認識は有意な関連を示さなかった。このことから、1)国や地域によっては、性別役割分業肯定認識が強い社会の中で女性のトップ・アスリートが活躍している状況が存在する、2)性別役割分業肯定認識が強いことは、女性のトップ・アスリートのオリンピック大会への出場率を増加させる直接的な阻害要因とはなりにくいことが示唆された。これは一般的な男女共同参画社会の推進を目指す中で議論されてきたのとは異なり、トップ・アスリートのスポーツに関する特殊な傾向である。新たな検討課題として、1)GEM等の指数を指標とすることの妥当性、2)生涯スポーツにおける女性の参加を対象とした分析との比較検討、3)スポーツ政策や経済力等の上述の特殊な状況を支える要因に関する検討、を見出すことができた。

1 Sydney Organizing Committee for the Olympic Gamesの略称、シドニー五輪大会組織委員会